

保健師 ルポ



さつま町保健福祉課保険係の皆さん(筆者前列右2人目)

町民とともに健康づくりに取り組みたい

さつま町 保健福祉課 保険係 保健師 神野 彩

ひと・まち・自然
みんなで紡ぐさつま町

さつま町は鹿児島県の北西部・北薩地域の中心部で、鹿児島市から約50kmのところに位置しています。町の北部には標高1067mの紫尾山があり、そこから分岐する山々に囲まれた緑豊かな町です。

町のほぼ中心を南九州一の大河である川内川が貫流しており、5月から6月にかけて数多くのホタルを目にすることが出来ます。また田園や竹林、小川のせせらぎなど豊かな自然に恵まれています。

神社の拝殿下から湧出することから神の湯と言われる「紫尾温泉」や江戸時代に発見された歴史ある「宮之城温泉」をはじめとし、町内には数多くの温泉施設が点在し、美人泉と呼ばれる湯が湧出していることで県内外に知られている温泉地でもあります。基幹産業は農林業で、特に「薩摩中央家畜市場」の子牛取引価格は全国トップクラスです。

人口は1万8872名(令和5年4月1日現在)、高齢化率は42.0%、出生数は年間70〜80名前後であり、本町においても少子高齢化が進んでいます。国保加入率は21.2%となっています。

私の所属する保健福祉課保険係は、係長含め事務職4名、保健師2名



紫尾温泉

会計年度任用職員7名(保健師2名、管理栄養士1名、看護師1名、レセプト点検員2名、事務補助1名)が配置されています。特定健診をはじめとする保健事業については、保健福祉課内で協力しながら実施しています。

特定健診受診率の高さは地域力の結集

特定健診の受診率は、平成24年度に初めて70%台まで上がって以降、令和元年度までは70%前半を推移していました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、受診率は66%台まで下がってしまいました。令和3年度は69.1%まで持ち直し、全国の町村の中で上位10自治



特定健診問診の様子

体に入りました。受診率に貢献している取り組みの一つが、行政からの委嘱委員による受診勧奨活動です。地区や公民会の行政連絡員や健康づくり推進員に特定健診の受診勧奨をお願いしています。顔の見える関係による声かけといった地域の力が受診率に大きく影響していると考えています。また3年間連続未受診者に対しては、訪問による受診勧奨活動を行っています。この取り組みについても地域に住んでいる専門職の協力をいただき、生活状況の確認や、未受診理由の聞き

厚生労働大臣メッセージ

受診率が高い一方で、国民健康保険における1人あたり医療費は、ここ数年県内で上位6位以内を推移しています。生活習慣病にかかる医療費は県や国と比べ高く、特に人工透析に至る慢性腎不全（CKD）にかかる医療費が突出して高い状況です。またCKDの発症と関連が深い高血圧や糖尿病についても治療をしている方の割合が高く、本町の健康課題となっています。CKD対策としては、県内の他自治体でも取り組まれているCKD予防ネットワークの運用や、健康増進普及月間に合わせたパネル展示による啓発活動を実施しています。高血圧や糖尿病の対策としては、特定健診結果においてⅡ度高血圧以上、

健康課題への取り組み

取り、受診方法に関する情報提供を行っています。国の目標値は達成している受診率ですが、年代別にみると40～50歳代の受診率が低く今後の課題となっています。若年者の受診率対策として、特定健診の初年度となる40歳到達者を訪問し、特定健診の目的等について丁寧に伝えしています。また若いうちから自分の体に関心をもつて、健康づくりに投資してもらうため、30歳代の国保加入者を対象とした若年健診も令和2年度から始めました。



CKD啓発パネル展示

または糖尿病型に該当した方へ、保健指導や病院への受診勧奨、受診状況の追跡等を実施しています。併せて過去6年間の特定健診の結果で、一度でもⅡ度高血圧以上、または糖尿病型に該当した特定健診未受診者を訪問し、受診勧奨や保健指導を実施しています。また集団健診会場で健診を受診された方全員を対象に、平成26年度から個別面談型の結果報告会も行っています。生活習慣病の発症予防、重症化予防のためには、個人の健診結果や生活習慣に合わせた保健指導を早期から実施する必要があると考えています。専門職の人材不足もあり、受診者全員を対象とした事業の継続に難しさを感じています。結果報告会の開催日数を増やす等、試行錯誤しているところです。

町民に寄り添った切れ目ない支援を目指して



結果報告会の様子

本町ではまだ、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」に取り組めていない状況です。今実施している事業の洗い出し、本町の健康課題の分析、計画策定など、今年度進めなければならぬことは山積みですが、関連部署と連携しながら協議をしているところです。

町民一人一人の思いや生活背景に寄り添った関わりや、自分の体に関心を持ち、自主的に健康づくりに取り組めるよう背中を押す保健指導の積み重ねが、町の目指す「健康いきいき“元気さつま”」の実現に繋がることを信じ、専門職としてスキルアップに努めていきたいと思っています。